

令和3年度第2回あま市総合教育会議議事録要旨

令和4年1月12日（水）

午後4時から午後5時まで

美和総合福祉センターすみれの里2階 集会室

1 出席者等

出席者等（委員）	6名
（事務局）	14名
（傍聴者）	0名

2 議題

あま市教育大綱の策定について

【あま市教育大綱の策定について】

（説明要旨）

○国の考え方とあま市総合教育会議の意見を踏まえ、「あま市教育大綱」の素案を策定した。フォントは、ユニバーサルデザインに配慮した。

次期「あま市教育大綱」の名称は、現行の「あま市教育大綱」と同じく、「あま市教育大綱」とした。

1 ページ「あま市教育大綱の策定にあたって」は、策定の趣旨であり市長の思いである。1 段落目は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正を受け、市が「あま市教育大綱」を策定した意義と経緯。2 段落目は、教育委員会と連携し、教育行政の充実を進めてきたことを述べた。3 段落目は、社会状況の変化や教育をめぐる状況の変化により教育環境が大きく変化したこと。また、新型コロナウイルスの発生は、教育環境へ大きな影響を与えたことから、新たな感染症の発生による教育環境への影響を危惧した。4 段落目は、教育環境の変化を受け止め、山積する課題や新たな課題を解決するため、これからのあま市に必要な人物像を明確に示した。人物像は、現行の「あま市教育大綱」、「あま市教育立市プラン」、「教育振興基本計画」を参酌するとともに、主権者教育の考えやコミュニケーション能力、地域活動に積極的に参加できる人を育て上げることを目指し、「自ら主体的に判断し、共生と協働により新たな価値を創造することができる人づくり」と明言した。5 段落目は、「第2次あま市総合計画」と整合性を図り、「教育立市」の理念の実現と具体的な人物像を「あま市らしい人」として育むため、大綱に6つの施策を定めたことを述べた。最後の段落は、市と教育委員会が教育に関する課題や教育の目指すべき姿を共有し、共に教育行政を推進して行くことを述べ、結んでいる。

2 ページは、あま市総合教育会議の意見を踏まえ「あま市の人づくり」として改めた。「あま市教育大綱の策定にあたって」の市長の想いを基に、どのような市民を育てていくのかを宣言した。「あま市の人づくり」は、次期「あま市教育立市プラン」と整合性を図っている。

3 ページ「大綱の期間」は、「第2次あま市総合計画」や次期「あま市教育立市プラン」と整合性を図り、令和4年度から令和13年度までの10年間とし、Ⅰ期とⅡ期に分けた。「6つの施策」は、あま市総合教育会議の意見を踏まえ、施策の項目や記載内容は、次期「あま市教育立市プラン」と整合性を図った。

【主な意見・質疑等】

(意見要旨)

○「教育大綱」は教育の根幹であり、最上位計画の「総合計画」と「教育大綱」及び「教育立市プラン」は三位一体である。「教育大綱」の根幹は、「あま市の人づくり」であるが、明記されている内容は、「教育立市プラン」の「あま市の教育について」と重複している。「教育大綱」を踏まえた「教育立市プラン」であり、同じ内容では大綱として相応しくないと感じている。「教育大綱」は、「あま市の人」をどのように育むべきかを大局的に表現するべき。

○「あまっ子」の注釈は、「あま市の子どもに対する親しみやすい名称」で良い。自らの判断と責任で、諸課題に取り組むことができる子どもを育てるため、様々な施策に取り組んでおり、注釈を「自らの判断と責任で、諸課題に取り組むことができる力を備えたあま市の子ども」とすると、既に完成されている子となるのではないか。

以前の「あまっ子」の注釈は、「あま力を備えた子どもの親しみやすい名称」であり、「あま力」の注釈が「自らの判断と責任で、諸課題に取り組むことができる市民」となっている。

○「施策4 学校の教育環境の整備と充実に努める」は、施策1～3や6と異なり主題文と説明文の末尾が異なっているため、主題文と説明文の末尾を揃えたほうが良い。

(回答要旨)

○「あまっ子」の説明文は、「第2次あま市総合計画」の用語集と整合性を図っている。

(意見要旨)

○「あま市の人づくり」の「生涯にわたって主体的に学び続け、自らの判断と責任で地域の課題に取り組むことができるあま市らしい人づくり」は全ての市民、生涯学習、スポーツを含んでいるため、「学び続け」に「ながら」という、言葉を入れてはどうか。大人や教員による学校教育だけでなく、生涯学習、スポーツ推進、

食育も含めた4つの分野から人づくりは行う。

- 「あまっ子」は、「教育大綱」と現状の「教育立市プラン」では注釈が異なっているが、「総合計画」と整合性を図っている。「あまっ子」の注釈はどちらが良いか。
「あまっ子」や「あま力」は他には無い言葉であり、あま市らしい大綱であり、その辺りも含めどのように扱うのか。
- 「あまっ子」は、現状の説明で良い。将来、社会に出て、生きていく力の基礎基本であり問題ない。

(回答要旨)

- 大綱は、教育の大局のため、「あま市の人づくり」は表現を変える。子どもたちだけでなく、子どもたちが大人になった時にどのように育っているかが大切である。子どもたちをどのように育てていくのかを明記する。
- 主権者教育やシティズンシップ教育の考えを取り入れたい。「あまっ子」の注釈は正にその通りである。地域活動への参加や社会との関わり、選挙への関心も含め、あらゆる変化に対応できる子どもたちを育み、新たな課題を見つけ解決しながら育っていける大人になることを望んでいる。

(意見要旨)

- 「あまっ子」の注釈は、「あま市の子どもたちに対する親しみやすい名称」で十分。
現在の注釈は、政策などにより、「あまっ子」を育む指針として示せば良い。

(回答要旨)

- 「あまっ子」は、過去の「教育立市プラン」で既に規定されている。

(意見要旨)

- 「あま力」の説明をお願いしたい。

(回答要旨)

- 「あま力」は、現行の「教育立市プラン」に記載されている言葉。「自らの判断と責任で地域の諸課題に取り組むことができる市民」の造語として記載している。

(意見要旨)

- 「あまっ子」と「あま力」は同じ意味か。

(回答要旨)

- 「あまっ子」は、「あま力」を備えた子どものこと。
- 「あまっ子」は子どもたちだけでなく、あま市で育った子どもたちは「あまっ子」となる。大人も「あまっ子」育ちのため、「自らの判断と責任で地域の諸課題に取り組むこと」を実践していただきたい。

(意見要旨)

- 「あまっ子」は、「あま力」を備えた子どもに対する親しみやすい名称」と現状

の「教育立市プラン」に明記されているが、大人も「あまっ子」なのか。

(回答要旨)

○大人は、「あまっ子」と言いません。大人は、「あまっ子」育ちとなる。

(意見要旨)

○「教育大綱」は、市長の想いを表現していただければ良い。

○「教育大綱」に全て詰め込まなくて良い。

○「あまっ子」や「あま力」の言葉を分かりやすく明記していただきたい。

(回答要旨)

○市長の想いを「あま市の人づくり」の中に盛り込む。大綱は上位計画となるため、「教育大綱」は大局的に明記し、それを「教育立市プラン」に落とし込む。

(意見要旨)

○「あま市の人づくり」は、市長の想いであり、「教育立市プラン」と同じでも良いが、もっと市長の想いを明記しても良い。

○将来にわたって取り組んでいきたいことを明記していただければ良い。今も行政と教育委員会が連動し様々な施策を実施している。

(回答要旨)

○「あま市の人づくり」の表記は見直す。

(意見要旨)

○一般の方が一読して分かる内容が良い。

○「教育立市」という言葉は、文章から意味は理解できるが、改めて「教育立市」という言葉が出てくると別の意味があるのではと考えてしまう。「教育立市」という言葉ではなく市長の言葉で明記したほうが良い。

(回答要旨)

○あま市は国に先駆けて「教育立市プラン」を策定しており、「教育大綱」と「教育立市プラン」の策定が逆になっていた。現行の「教育大綱」は「教育立市プラン」の後に策定され、既に策定済みの「教育立市プラン」の中に「教育立市」が明記されていた。「教育大綱」の「あま市の人づくり」は大局的な内容としたい。

○前回の「教育大綱」は、「教育立市プラン」ありきで策定した。今回は、「総合計画」があり、「教育大綱」があり、それから「教育立市プラン」となる。「教育立市プラン」は、「教育大綱」を細分化し、生まれてから死ぬまであま市で学び続けることができるプランを作る。各計画には、それぞれの役割がある。

(意見要旨)

○「教育立市プラン」には、新たな施策や目標を掲げたかった。教育をどのようにしていくのかという大前提が、「教育大綱」も「教育立市プラン」も一緒であれば、

こだわる必要はない。

- 「教育大綱」は、今後 10 年の計画となる。これからの 10 年がどうなるのか、市長の先を見る目を入れていただくと良い。
- 未来を見据えることは可能であるが、それを「教育立市プラン」に落とし込めるか。

(回答要旨)

- 総合教育会議で「教育立市プラン」の見直しを行う。協議の中で新たな課題が見つかった時は、「教育立市プラン」に落とし込んでいく。「教育大綱」は 10 年間の大きな目指す姿であり、具体的ではなく抽象的で良いと考える。

(意見要旨)

- 「施策 1」の説明文のみ具体的に明記されている。現在の内容では、教職員に責任があるように感じるため、もう少し普遍的な説明文としていただきたい。
- 「6 つの施策」は、「教育立市プラン」にも明記されており、「教育大綱」に明記する必要があるのか。「教育大綱」は、「あま市教育大綱の策定にあたって」と「あま市の人づくり」だけで良い。
- 「教育大綱」は大局的で良く、具体的な政策は「教育立市プラン」で定める。
- 「施策 1」などは項目のみとし、中身は「教育立市プラン」で明らかにする。説明文は無くても良い。

(意見要旨)

- 「あま市教育大綱の策定にあたって」に「一人親世代の増加」とあるが、「一人親世帯」ではないか。

(回答要旨)

- 「一人親世代」と明記されているが、本大綱は、国の「教育振興計画」を参酌しており、正しくは「一人親世帯」となるため修正する。

(意見要旨)

- 学力学習状況調査の結果から、子どもたちは楽しん学校生活を送っていると受け止めた。ただ、学力では基礎基本が身につけてない。また、不登校など多くの問題が学校現場にある。
- 近年、若い教員が非常に多く、産休育休を取得する。正規職員ではない講師が多い中、若い教員が増えたことで講師の負担が増えている。年度途中で講師が代わると、速やかに補充ができない場合があり、学校現場は非常に苦しんでいる。多くの業務がある中、講師の割合も増えており、スクールサポーターを充実させるなど市独自で対応しなければ、教員の働き方改革は難しい。
教員が多忙のため、地域の協力を仰ぐなど国も指標などを出している。「総合計画」でも、地域と一緒に子どもたちを育てると明記されており、地域の協力をい

ただけると良い。

- 不登校も全国平均や県平均と比較すると高いレベルにある。その辺りも整理し、現在の状況をお示ししたほうが良い。

(回答要旨)

- 本市は、スクールサポーターの配置に1億円の予算を認めている。他の自治体で、そこまで費用を投じているところは見受けられない。費用の多くは人件費のため、相当数の人員を確保している。
- 学校側がいかに学力を伸ばしていくか。学校で切磋琢磨し学力を伸ばしてもらう。そこで初めてこれが限界なのか、なぜ学力が上がらないのか、ということが分かる。教員が足りないとなると事情が変わってくるが、人口で比較すると少ないわけではない。
- コミュニティスクールを活用し、地域の人材を発掘していく。
- 中学校の部活は、教員の負担を減らすためにも、スポーツ課と連携し市全体で考えていく。

【その他】

【主な意見・質疑等】

(意見要旨)

- 教員の多忙化について、極論となるが、部活動は教員が行わなくて良いと考えている。部活動での生徒の目標もあるため、どのような方法が良いか検討は必要だが、国に早く方針を示していただきたい。
部活動をクラブ化し、全国大会に出場できるような組織づくりを中体連で協議していただきたい。まだ、制度として確立していないため、部活動をやめることはないが、教員の負担は大きいため、いかに解消していくのか考える必要がある。
- タブレット端末を活用して学力を伸ばしていく必要はあるが、それらも教員の負担となる可能性がある。物的・人的の支援を市長部局と教育委員会が連携していくことが重要。
- タブレット端末の活用への対応が遅いと生徒たちが可哀そう。教員も得意不得意はあるが、生徒たちはタブレットの使い方を覚えるのが早いため、教員も早く使いこなして欲しい。
- 教育委員会事務局の派遣指導主事は、今2人で市内17校を指導している。市単独で支援するなども考えていただきたい。
- 尾張地区は、大都市以外は2人。あま市の規模であれば3人は少なくとも必要である。新たに教育相談センターに1人指導主事を配置できると良い。

(回答要旨)

- 東海市は、教育センターに研修機関を整備している。
- 教育相談センターを設置している自治体がどれだけあるのか。本市は率先して設

置しており、子どもや親、教員も教育相談センターで相談できるシステムとなっている。